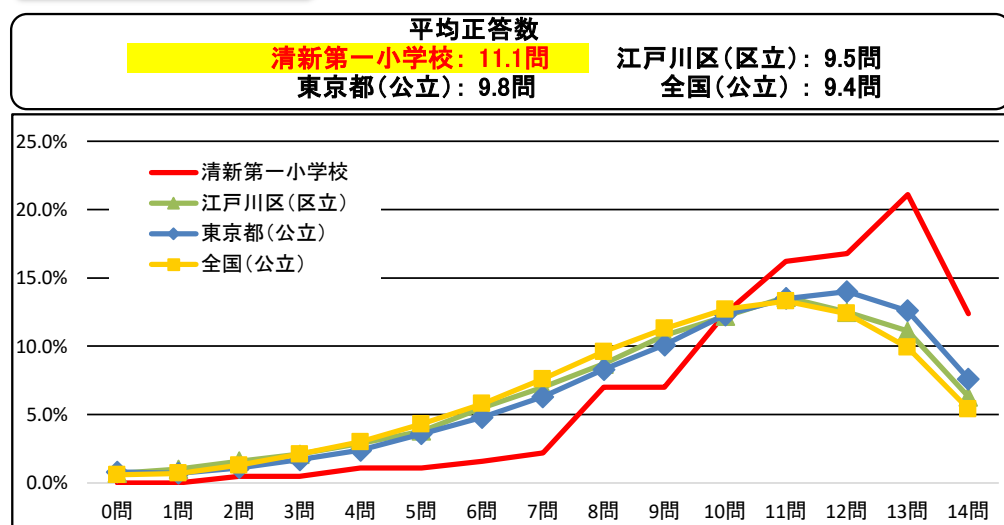


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 清新第一小学校

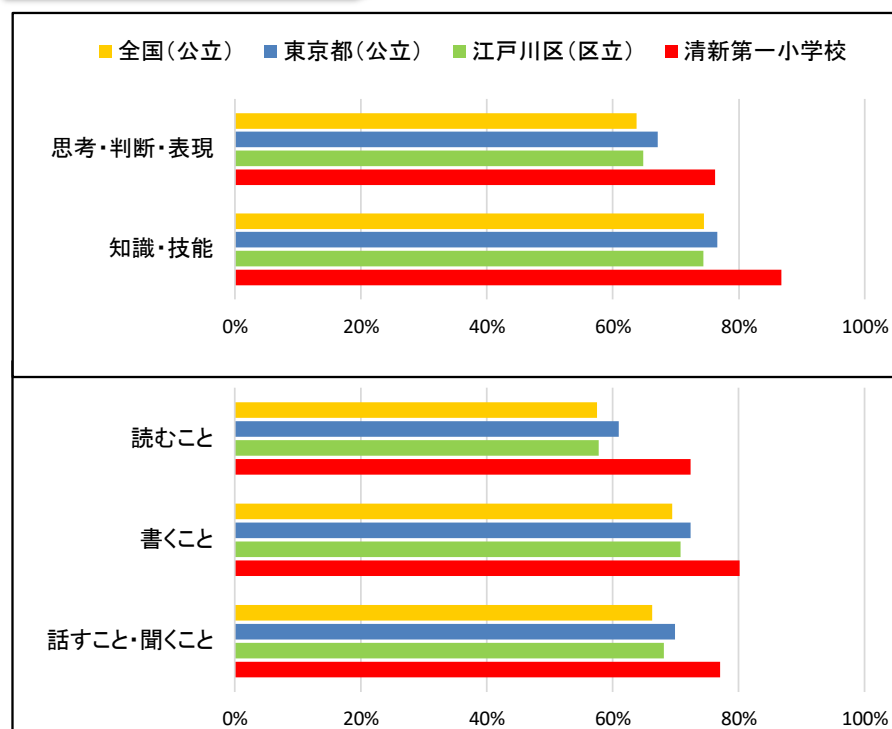
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

清新第一小学校	79%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	9.0

「領域別」の結果

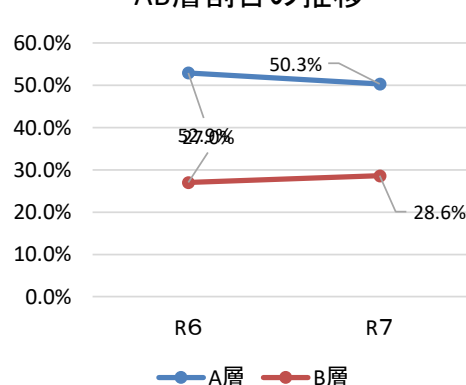


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

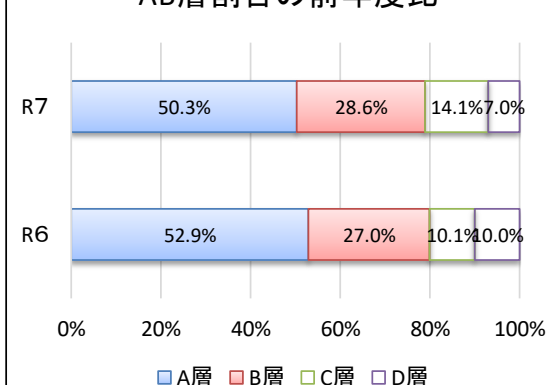
国 語	上 位 ← → 下 位			
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
清新第一小学校	50.3%	28.6%	14.1%	7.0%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

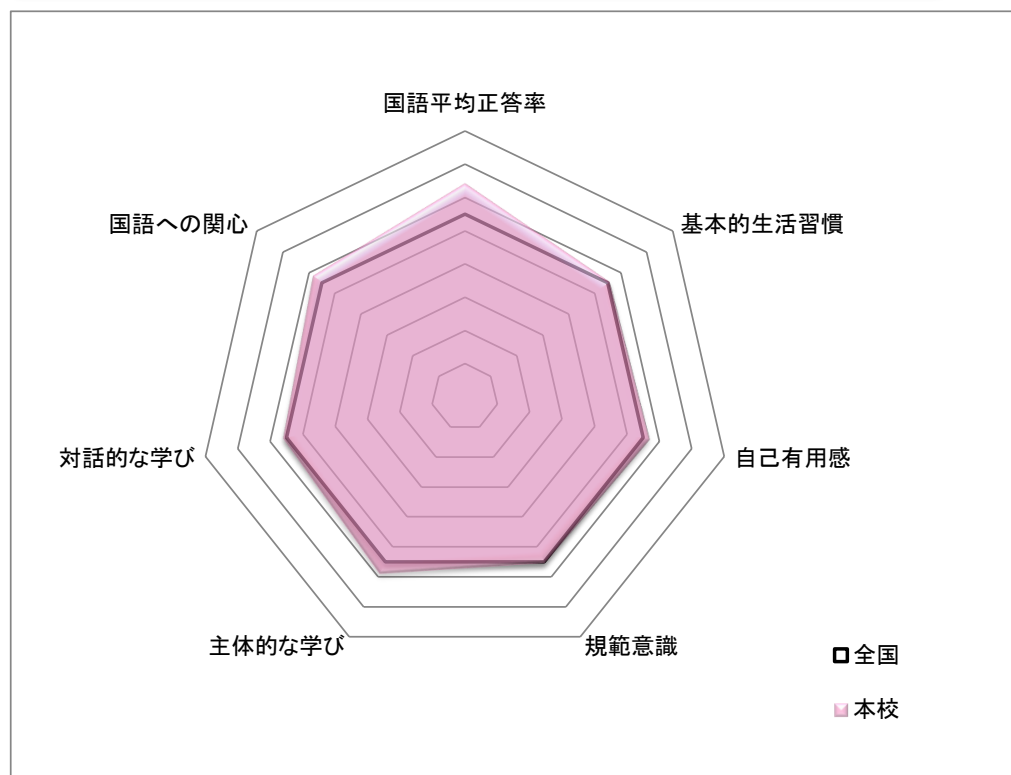
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

全国平均値は、国語への関心度が算数への関心度よりわずかに高くなっているが、本校は算数を好きな児童の割合が67.6%、国語を好きな児童の割合が62.1%と、全国とは逆の傾向にある。国語の正答率は全国平均を大きく上回っていることを考えると、国語を好きになるような授業の研究と工夫した取り組みを考えることで、さらなる学力の向上が図れると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

ホームページや学校便り等で、全国学力・学習状況調査の結果を公表する。調査結果の個票を返却する際には、一人一人の課題を共有し、各家庭での取り組みや励ましへの参考としていく。また、規範意識の向上や生活習慣定着のために、保護者会や家庭学習週間の取り組みを通して協力をお願いしていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

(AB層の割合)

昨年度が79.9%、今年度が78.9%と、大きな変動はない。

(取組内容)

語彙量を増やしたり適切に使えるようにしたりする取り組み「言葉の宝箱」を国語の時間を中心に行っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

校内研究において国語科指導の研究が2年目に入っている。「主体的に読みを深める児童の育成～読んで伝え合う姿を求めて～」を研究主題として、各学年で研究授業を行っている。1時間の研究授業を行うために、数か月前から児童にアンケートを取ることで現状把握を行い、児童に身に付けさせたい力を検討し、綿密に授業計画を立て、研究授業につなげている。

・基礎学力の保障

授業時間内で学習した新出漢字は、漢字ドリルを活用して、学校・家庭どちらにおいても取り組ませ、漢字習得の定着を図っている。音読することは国語の多くの能力に直結するため、学校・家庭どちらにおいても取り組ませ、語彙量を増やし、発音技能の向上を図っている。

・学習習慣の確立

漢字ドリル、音読を家庭学習として設定することで、学校と家庭双方で学習内容を定着させるとともに、家庭での学習習慣を定着させる。また、家庭学習週間の取り組みを通して、生活習慣を含めた日常生活を児童自身が客観的に振り返る機会を設け、改善につなげていくことができるようにしていく。自主学習を課題として出すことで、自ら問題を設定し解決していく力も育ていく。

・AB層の育成

情報を正確に読み取り、要約や考察する力を伸ばしていくことが必要である。そのため、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえたり文章全体の構成を捉えて要旨をまとめたりする活動や目的に応じて文章と図表などを結びつけて必要な情報を見つける学習を積極的に取り入れていく。また、自分の意見をまとめて「書く」活動を今後も継続して取り組んでいく。